

全国知事会代表知事団の中華
人民共和国友好訪問報告書

自 1974年8月19日
至 同 9月 2日

全 国 知 事 会



鄧小平國務院副總理表敬訪問

(8月23日 人民大會堂)

序 文

全国知事会は、中華人民共和国の招きで全国知事会代表知事団を編成し、1974年8月19日から約10日間に亘って中国を友好訪問した。

団長は、桑原愛知県知事、副団長は奥田奈良県知事と溝淵高知県知事、団員は宮澤広島県知事、大槻宮城県副知事、白根神奈川県副知事、小山熊本県副知事、秘書長として瓦井全国知事会渉外部長、それに秘書4名の合計12名の団編成である。

知事団は、北京・沈陽・上海・杭州・広州の各地を訪問したが、いずれの地でも熱烈な歓迎をうけた。申すまでもなく両国の友情は、2000年の歴史があり、今日もそれがげん然として持続していることをあらためて確認し、深い感銘をうけたのである。

北京では、鄧小平国務院副総理や、廖承志中日友好協会会長を始め、王磊北京市革命委員会副主任、王耀庭中国国際貿易促進委員会主任を表敬訪問して親しく懇談し、相互理解と友好親善を一層深めることができた。また、人民公社、野菜市場、人民防空壕等を視察したがすべての中国人民は、新しい社会主義国家の建設に懸命であり、いたるところで活気が満ち溢れている光景を見ることができたが、力強い指導性と団結力には、全く敬服した次第である。

桑原団長は、県政の都合上、北京の日程を終え、帰国の途についたので、副団長の奥田奈良県知事を団長とし、副団長に溝淵高知県知事と宮澤広島県知事、団員に大槻宮城県副知事、白根神奈川県副知事、小山熊本県副知事と団の再編成を行った。

沈陽では、朱維仁沈陽市革命委員会副主任を表敬訪問し、懇談をするとともに、大型機械工場や、農業用小型ハンドトラクター工場、医学院と第1附属病院などを視察した。

工場では、自立更生、独立自主の精神をもって生産の向上に努め、病院に

おいては中国・西洋医療の結合を主眼とした研究、治療に鋭意努力していることをこの肌で良く感じとることができた。

また、我々がとくに希望していた在留日本人の一時帰国手続の促進問題については、関係資料を提出し要望するとともにこれら在留邦人との面会については、中日友好協会の特別の配慮により、実現したことは、まことに感謝に堪えないところである。

更に上海、杭州、広州においては、省市の革命委員会主任または副主任を表敬訪問し、忌憚のない意見交換を行なうとともに、上海の彭浦新村（労働者住宅団地）や杭州の錦織物工場をそれぞれ見学したが、いずれも新しい中国の躍進ぶりがうかがわれた。

今回の訪中知事団は、その日程の中で極めて精力的に各地を訪れ、多くの指導者、労働者と接触して、少しでも多く中国を知ろうという意欲にもえ、あらゆる面の勉強をして帰国したが、中国人民の老若男女を問わず、独立自主、自力更生の精神をもって一致団結し、建国にはげんでいる姿には、いちように目をみはり、両国の社会体制は異にすれども参考にすべき点は積極的に取り入れるべきであるということを痛感した次第である。

更にわれわれ訪中知事団は、多くの要人、指導者、労働者と接触し、意見を交換するとともに産業・経済・文化の多方面に亘って視察する機会を得たがその成果は極めて大きく両国の相互理解と友好親善を一層深めることに寄与したものと確信しているところである。

最後に日中両国の友情が子々孫々、世々代々にまで発展し持続するよう祈念するとともにわれわれを熱烈に歓迎し、世話をして下された中国の方々に深く感謝の意を表するものである。

1974年

中華人民共和国訪問全国知事会代表知事団

目 次

概 要	1 頁
8 月 1 9 日 東京～香港	8
8 月 2 0 日 深 圳	9
広州～北京	10
8 月 2 1 日 北 京	
故 宮 参 観	11
大 柵 欄 街 防 空 壕 見 学	12
中国国際貿易促進委員会主任（王耀庭）表敬訪問	13
日本大使館主催歓迎晩さん会	14
8 月 2 2 日 北 京	
西单菜市场視察	14
万里長城見学	15
明十三陵、定陵見学	15
十三陵ダム	16
北京市革命委員会副主任（王磊）表敬訪問	16
中日友好協会会長（廖承志）表敬訪問	18
中日友好協会主催歓迎晩さん会	19
8 月 2 3 日 北 京	
鄧小平国務院副総理表敬訪問	22
人民大会堂見学	26
中日友好協会との懇談	27
全国知事会代表訪中知事団主催晩さん会	31

8月24日	北 京	
	四季青人民公社見学	34 頁
	頤和園参観	39
8月25日	沈 陽	
	沈陽大型機械工場視察	41
	小型ハンドトラクター工場視察	44
	北陵公園参観	48
	遼寧省革命委員会副主任（李素文）表敬訪問	
	と同副主任主催歓迎晩さん会	48
	映画観賞	49
8月26日	沈 陽	
	沈陽医学院と第一附属病院視察	49
	在留邦人との面会	52
8月27日	北京～上海	53
8月28日	上 海	
	上海工業展覧会見学	54
	彭浦工人新村視察	54
	上海市革命委員会副主任（馮国柱）表敬訪問	
	と同副主任主催歓迎晩さん会	55
8月29日	上海～杭州	57
	杭州市錦織工場視察	58
	西湖遊覧	58
	杭州茶（龍井茶）の生産地視察	59
	浙江省革命委員会副主任（頼可可）表敬訪問	
	と同副主任主催歓迎晩さん会	59

8月30日	杭州～広州	61頁
	広東省革命委員会副主任兼広州市 革命委員会主任（焦林義）表敬訪 問と同副主任主催歓迎晩さん会	62
8月31日	広州～香港	63

中国訪問全国知事会代表知事団報告書

1. 期 間 昭和49年8月19日(月)～9月2日(月)
2. 訪問地 北京・沈陽・上海・杭州・広州
3. 団の構成
- | | | | |
|-------|---------------|-----------|--|
| 団 長 | 愛 知 県 知 事 | 桑 原 幹 根 | |
| 副 団 長 | 奈 良 県 知 事 | 奥 田 良 三 | |
| 同 | 高 知 県 知 事 | 溝 淵 増 巳 | |
| 団 員 | 広 島 県 知 事 | 宮 澤 弘 | |
| 同 | 宮 城 県 副 知 事 | 大 槻 七 郎 | |
| 同 | 神 奈 川 県 副 知 事 | 白 根 雄 偉 | |
| 同 | 熊 本 県 副 知 事 | 小 山 岑 雄 | |
| 秘 書 長 | 全国知事会渉外部長 | 瓦 井 光 司 | |
| 秘 書 | 同 副部長 | 宇 田 川 千 治 | |
| 団長秘書 | 愛知県秘書課長 | 河 合 要 | |
| 副団長秘書 | 奈良県秘書課長 | 安 本 達 司 | |
| 同 | 高知県知事三女 | 北 川 千 香 子 | |

(24日以降)

- | | | | |
|-------|---------------|-----------|--|
| 団 長 | 奈 良 県 知 事 | 奥 田 良 三 | |
| 副 団 長 | 高 知 県 知 事 | 溝 淵 増 巳 | |
| 同 | 広 島 県 知 事 | 宮 澤 弘 | |
| 団 員 | 宮 城 県 副 知 事 | 大 槻 七 郎 | |
| 同 | 神 奈 川 県 副 知 事 | 白 根 雄 偉 | |
| 同 | 熊 本 県 副 知 事 | 小 山 岑 雄 | |
| 秘 書 長 | 全国知事会渉外部長 | 瓦 井 光 司 | |
| 秘 書 | 同 副部長 | 宇 田 川 千 治 | |

団長秘書	奈良県秘書課長	安本達司
副団長秘書	高知県知事三女	北川千香子

4. 表敬訪問

北京	国務院副総理	鄧小平氏
	北京市革命委員会副主任	王磊氏
	中国友好協会会長	廖承志氏
	中国国際貿易促進委員会主任	王耀庭氏
沈陽	遼寧省革命委員会副主任	李素文女史
	沈陽市革命委員会副主任	朱維仁氏
上海	上海市革命委員会副主任	馮国柱氏
杭州	浙江省革命委員会副主任	頼可可氏
	杭州市革命委員会副主任	邱強氏
広州	広東省革命委員会副主任 兼広州市革命委員会主任	焦林義氏
	広州市革命委員会副主任	鐘明氏

5. 友好親善訪問の経過

(1) 総括

訪問日程の概要

月日	時刻	発着	交通機関	行事・その他	宿泊
19日(月)	14:45 18:15	東京空港発 啓徳空港 (香港)着	飛行機		美麗華酒店
20日(火)	9:26 10:30 13:05 14:50 18:00 20:35 20:45 21:20	九龍駅 発 羅湖駅 着 深圳駅 発 広州駅 広州空港発 北京空港着 同 発 北京飯店着	汽 車 汽 車 飛行機 ハイヤー	通関・出国手続 通関・入国手続 陳秋泉対外友好協会広 東省分会責任者出迎え 鐘明広州市革命委員会 副主任外出迎え 広州迎賓館で休憩 鐘明副主任外見送り 王囊生中日友好協会副 会長外中国側要人多数 と駐中日本大使館市川 参事官ほか出迎え 夕食後、金蘇城中日友 好協会理事ほか数名と 全体の日程打合せ	北京飯店
21日(水)	9:20 11:30 14:50	北京飯店発 北京飯店着 北京飯店発	ハイヤー	故宮参観 中国側と日程打合せ 人民防空壕見学	

月日	時刻	発着	交通機関	行事・その他	宿泊
	16:00	中国国貿促着		呉工国首都人民防空弁 公室責任者出迎え・説明 王耀庭中国国際貿易促 進委員会主任表敬訪問 懇談	
	18:25	北京烤鴨店着		大使館主催の歓迎レセ プション 市川参事官ほか出席	
	20:00	北京飯店着		日程の打合せ	北京飯店
22日(木)	9:00	北京飯店発	ハイヤー	西单菜市场視察 董治斉、同市場党支部 副主任出迎え、説明 孫平化中日友好協会秘 書長の案内で万里長城 視察と明十三陵参観	
	16:20	北京飯店着			
	17:00	北京飯店発			
	17:10	北京市革命 委員会 着		王磊北京市革命委員会 副主任表敬訪問	北京飯店
	18:30	北京飯店着		廖承志中日友好協会会 長主催歓迎レセプショ ン(於:北京飯店7階)	
23日(金)	9:40	北京飯店発	ハイヤー		
	10:00	人民大会堂着		鄧小平副総理表敬訪問 (人民大会堂)人民大 会堂見学	
	15:00			中日友好協会との懇談 (於:北京飯店)孫平 化秘書長ほか幹部出席	

月 日	時 刻	発 着	交通機関	行 事 ・ そ の 他	宿 泊
23日(金)	18:10 18:30	国際クラブ着		訪中全国知事会代表知 事団主催レセプション (於:国際クラブ)	北京飯店
24日(土)	8:30 15:00 17:30 19:30 20:05	北京飯店発 北京飯店着 北京飯店発 北京駅 発	ハイヤー 汽 車	四季青人民公社視察 頤和園参観 北京友誼商店見学	車 中
25日(日)	6:25 6:35 7:00 9:00 14:30 18:30 20:30	沈陽駅 着 沈陽駅 発 友誼賓館着 友誼賓館発 友誼賓館発 友誼賓館発	ハイヤー	朱維仁潘陽市革命委員会 会副主任ほか関係者出 迎え 沈陽大型機械工場見学 小型ハンドトラクター 工場見学 北陵公園参観 李素文遼寧省革命委員会 会副主任表敬 同 副 主任主催歓迎レセプ ション(於:友誼賓館) 映画観賞「青松嶺」	友誼賓館

月日	時刻	発着	交通機関	行事・その他	宿泊
26日(月)	8:30	友誼賓館発	ハイヤー	沈陽医学院第1附属病院視察	
	14:30	友誼賓館発		故宮参観 在留日本人と面会 (於:遼寧大廈)	
	19:30	友誼賓館発			
	20:07	沈陽駅 発	汽 車	朱維仁沈陽市革命委員会副主任ほか関係者見送り	
27日(火)	6:22	北京駅 着	飛行機	李福德中日友好協会理事ほか関係者出迎え	錦江飯店
	10:20	北京空港発		王夔生中日友好協会副会長ほか関係者見送り	
	12:05	上海空港着		馮国柱上海革命委員会副主任ほか関係者出迎え	
	14:50			黄浦江を船で視察 上海市内視察(上海大廈屋上)	
	19:00			音楽会、上海楽団 (於:上海音楽厂)	
28日(水)	9:00	錦江飯店発		上海工業展覧会見学	錦江飯店
	14:00			彭浦新村視察	
	19:00			馮国柱上海革命委員会副主任表敬 馮国柱上海革命委員主催歓迎レセプション (於:錦江飯店)	
29日(木)	5:40	錦江飯店発			

月 日	時刻	発 着	交通機関	行事・その他	宿 泊
29日(木)	6:05	上海駅 発	汽 車	賀月仙上海革命委新村 委員会主任ほか見送り 邱強杭州市革命委員会 副主任ほか関係者出迎 え 杭州錦織物工場視察 西湖遊覧、龍井茶の栽 培視察 (西湖人民公社梅家塢 大隊委員会) 雲林禪寺参観 頼可可浙江省革命委員 会副主任表敬 頼可可浙江省革命委員 会副主任主催歓迎レセ プション (於:西冷賓館)	西冷賓館
	9:32	杭州駅 着			
	14:00	西冷賓館発			
	19:00				
30日(金)	8:00	西冷賓館発	ハイヤー	- 広州市革命委員会副主 任ほか関係者出迎え 広州友誼商店見学 焦林義、広東省革命委 員会副主任表敬 焦林義、広東省革命委 員会副主任主催レセプ ション (於:広東迎賓館)	広東迎賓館
	8:55	杭州空港発			
	13:30	広州空港着			
	15:00				
	18:20				
31日(土)	8:00	広東迎賓館発	ハイヤー	広州市革命委員会副主 任ほか関係者見送り 通関、出国手続	
	8:20	広州駅 発	汽 車		
	9:50	深圳駅 着			

月日	時刻	発着	交通機関	行事・その他	宿泊
31日(土)	12:00	羅湖駅 発		通関、入国手続	
	13:15	九竜駅 着			
	13:35		ハイヤー	美麗華酒店着	美麗華酒店

(2) 具体的経過

8月19日(月)

- 訪中全国知事会代表知事団は、都道府県会館知事室において、結団式を行なった。

瓦井全国知事会渉外部長より、代表知事団の紹介を行なった後、菅沼日中旅行社社長より訪中に関する一般的留意事項について説明を聴取した。

桑原団長は、知事団を代表して次のように挨拶した。

全国知事会代表知事団の中国訪問については、かねてから外務省を通じ中国側に要望しておったが、この度、中国側の格別の配慮により、われわれ知事団の訪中が実現することとなった。

知事団の編成については、各ブロックより一名ずつ推せん願ったが、知事・副知事各位には、非常に多忙中にも拘らず参加頂きましたことを感謝する。また、私は、県議会等の関係で途中で帰国しなければならないので御容赦ねがいたい。その後は奈良県知事に団長をお願いしたい。われわれは充分健康に留意して所期の目的を達成するため努力したい。

- なお、羽田の東京国際空港では、県関係者のほか在日中国大使館から李連慶参事官、宋金銘二等秘書、姚佩君女史(通訳)がきて知事団を

見送った。

出発に先立ち、桑原団長が次のように挨拶した。

今回知事会を代表する訪中知事団のために、御多忙中、多数の方々がお見送り下され厚く御礼を申し上げます。われわれは、地方自治行政担当者として中国の実情を知りたいとかねてから希望いたしておったが、今回、中日友好協会の廖承志会長の特別の御高配により、これが実現の運びとなり、本日、出発することとなった。この間、中国大使館の陳楚大使はじめ、李連慶参事官、宋金銘先生には、格別の御配慮を頂き心から感諸申し上げます次第である。我々の中国滞在期間は僅か10日間であるが、中国における行政・産業・教育等各方面に亘って充分その実情を視察して参りたいと存じております。暫く留守にいたしますが、よろしく願います。

- 代表知事団一行は午後2時50分にAZ789便で羽田空港を出発、午後6時25分啓徳空港（香港）に到着、直ちに、美麗華酒店に向い投泊した。

8月20日（火）

- 午前9時26分九龍駅発の汽車に乗車、午前10時30分羅湖（英国の租借地の北端）に到着した。

羅湖で英国側の必要な手続きをすまして、約50米位の橋を徒歩で渡り、途中で中国人民解放軍の兵士によってパスポートの検査を受けるとともに、検疫税関の手続を完了し、中国に入国した。

深圳では、対外友好協会広東省分会事務室責任者陳秋泉氏と同事務室職員宋慶彬氏（通訳）が出迎えた。両氏と日程の打合せをすまして、中

食をとった。広州への汽車の出発まで大部時間があり、加えて時差1時間あるので、中国貨幣に換金したり、異国の風景を望みながら時を過ぎたが、35度以上もある予想どおりの暑さを体験、これからの容易ならざる環境に対処する覚悟を新たにした。

- 午後1時05分、深圳駅を出発したが、車内は冷房されておったので一寸意外だったが、まずはほっとした。約2時間位で広州駅についた。広州駅は近代的なすばらしい大きな駅であるが、それよりも駅を出た途端、やはり思ったとおり暑さのきびしさに一同驚嘆した。

広州駅頭には、鐘明広州市革命委員会副主任、譚桂明中国人民对外友好協会広東分会副会長ほか多数が出迎えた。

これらの幹部の歓迎を受け、自動車に分乗して広州市内を通過して広東迎賓館に着いた。広東迎賓館では、中日友好協会の叶啓庸氏に今後の日程について説明を求め、かつ、知事団の希望を述べたが、いずれも即答は得られなかったため、北京に到着してから具体的日程を把握し、かつこちらの希望について申し入れることにした。

なお、知事団だけで中国側に申し入れる希望事項について相談したがその主なものは、(1)在留邦人の帰国(一時、永久)希望者に対する中国側の手続の促進とこれら在留邦人との面会、(2)訪中青年の船の受入れの問題、(3)中国内で戦死した遺族の墓参をかねた訪中の実現、(4)友好都市の締結について中国側の考え方、(5)病院の見学、(6)桂チャボ寄贈、等々である。

- 午後5時、広東迎賓館を出発し、広州空港に向った。空港には、広州駅に出迎えた要人全員がわれわれを見送りのため、到着していた。空港控室で休憩中、鐘明広州市革命委員会副主任は次のように歓迎のあいさ

つをした。

広州は、今が一番暑い時期である。日本の友人は中国を訪問する際、必ずこの広州によって北京に行くわけだが、中日航空協定の締結によって、相互乗入れが実現すると日本の友人は広州に立ち寄らないだろうが、是非この広州を忘れないでほしい。とにかく知事団一行は、帰りには広州でゆっくりしてほしい。今度は古い友人として大いに歓迎する。

- 午後6時に広州空港を出発して、北京空港に到着したのは午後8時35分であった。北京空港では、中国側から中日友好協会副会長王夔生氏、同秘書長孫平化氏、国务院外交部亜州司副司長王晓雲氏、北京市革命委員会外事組負責人石焯氏、中国国際貿易促進委員会国際連絡部負責人李江氏、中国国際旅行社有関方面負責人ら多数と日本大使館の市川参事官、丹波一等書記官らの出迎えを受けた。

知事団一行は、中日友好協会の金蘇城氏、王音氏、呉従勇氏らの案内により、宿舍の北京飯店に到着した。

- 北京飯店では、金蘇城氏らと知事団の全日程について事務的に打合せをしたが、まず、知事団側として、すでに大使館を通じて示してある日程と広州で相談した追加日程について説明し、実現方を要望した。これに対し、中日友好協会側は、出来るだけ希望がかなえるよう努力するが、具体的スケジュールについては当方において検討し改めて連絡すると約束した。

8月21日(水)

○ 故宮参観

午前9時30分北京飯店を出発し、故宮管理責任者の王景福氏の案内

で参観した。

故宮は、明・清二代にわたる皇宮で、西歴1406～1420年に創建されたものである。敷地面積は72万平方メートル、部屋数9,000余で中国最大の古建築群である。故宮の建物は主として前部は大和殿、中和殿、保和殿の三大殿で明・清二代の皇帝がここで重大な行事を行なったところである。

後部は、乾清宮、交泰殿、坤寧宮、車西六宮と御花園からなり皇帝が政務をとるところである。また皇帝と后妃などの住いと遊樂場もある。また皇帝が官吏の接見、皇后の誕生祝い、結婚式にもここを使用した。建物は殆んど木造で柱も1本の木である。創建されてから以後、雷で焼かれたりして、数回修復した。とくに解放前は荒涼たるものであったが、解放後、少しずつ補修しているが広大な建物なので手が廻らないとのことである。

○大柵欄街防空壕見学

午後2時50分、北京飯店を出発し、防空壕見学に向った。

首都人民防空弁公室の呉工国氏の案内で大柵欄街、住民の防空壕を見学した。同氏の説明によると、この防空壕は地上から8メートルの深さで敵の襲撃に対する防禦と攻撃に備えるため、すべての住民が自分の手によって掘ったものである。地上は45ほどの商店があるいわゆる商店街であり、客の通過数量は一日平均8万人、祭日等には、最高10万人を超えるのでこれらの人々が、いざというときにそれぞれの商店から地下防空壕に入れるようになっている。防空壕には電話、水道、トイレ、放送設備、救護室、食糧倉庫、等がある。工事はすべての住民が自力更生の精神でやり、簡単な機械や道具、レンガ、レンガを作るカマもすべ

て自分の手で作るのだという。老人、女性、地域の住民、労働者すべてがこの工事に参加し、労働者は昼の労働を終え夜工事に参加するのである。

この防空壕はまだ完璧ではなく、出入口が狭いこと、階段が急であることなど若干の問題点があり、不十分なところがあるとのことでこれらの点について今後改良を加えて行くとのことである。

われわれは、毛主席の第3次世界大戦は必ず起る。そのために防空壕を深く掘り、食糧を貯えよという教えをまもり、これからも掘りつづける。都市だけでなく、郊外にも通ずるよう掘りつづけるつもりだ。と力強く語っていた。

○中国国際貿易促進委員会主任 王耀庭氏表敬訪問

午後4時に中国国際貿易促進委員会主任の王耀庭氏を表敬訪問し懇談した。

委員会側は、王耀庭主任のほか李江連絡部副部長と職員の子孫鴻友氏が同席した。

王耀庭主任は、次のような歓迎の挨拶を述べた。

全国知事会代表知事団の来訪を熱烈に歓迎する。先般われわれ代表団が日本を訪問した際は、情熱こもる接待をうけ心から感激している。大阪で開催した中国展は、各自治体の方々から支援して頂き、成功裡に閉幕することができ、心から感謝している。また観客も大勢きてくれて非常にうれしかった。特に愛知県や奈良県を訪問したときは、良く歓待してくれ心からお礼を申し上げる。

日本ではお目にかかれなかったが、友人の皆さんと今日北京でお目にかかれて非常にうれしい。

各自治体は、両国人民の友好関係の増進に多大の貢献をしていると思う。今回の友人の中国訪問は極めて意義深きものがあり、両国人民の友好増進のため、新たな寄与をするものと確信している。

以上の挨拶に対し、桑原団長は、私も開催期間中、展覧会場を訪れたが、大変な盛況であった。秋には東京に会場をうつして、開催されるときいているが、大阪以上の反響を呼ぶものと確信しご成功をお祈りする。

なお、中国の生産品については、日本国内のデパートなどにすばらしいものが陳列されているのみかけるが、こういった商品を常時、紹介するような方法をとられたら、中国を真に理解でき、友好を深めるに役立つものと思いと述べた。

そのあと、種々懇談が行なわれた。

○日本大使館主催歓迎晩さん会

午後6時30分より北京烤鴨店で大使館主催の晩さん会が催された。

8月22日(木)

○西単菜市场視察

午前9時、北京飯店を出発し、西単菜市场を視察した。西単菜市场党支部副書記の董治齊氏の説明によるとこの市場は、北京市郊外の人民公社と契約を結んで需要と購売力によって市場の計画を立てている。

人民公社は、その計画によって作物を作り、市場の必要な種類の品物を搬入する。価格は、北京市そ菜会社が統一的に決める。

このような市場は、大小600個所あるが販売値段はみな同じである。市場には多いとき(祭日等)は、1日10万人が出入りする。解放後、賃金は上ったが、物価は変わらないので暮らしは楽になった。

主食（米・麦・粉・トウモロコシの粉等）は、頭脳労働、肉体労働、年令その他それぞれの態様によって配給量が決められ、切符制である。必要量だけ購入し、余ったものは備蓄し（預けておく）、必要な場合に引き出すという仕組みになっている。これは、戦争や自然災害のときにそなえ、個人も食糧を備蓄するということだ。生産大隊、人民公社、国も勿論食糧を貯えている。

以上の説明のあと、市場を見学したが、今日は割合人数が少ないというが、それでも大勢の人々が列をつくり必需品を購入していた。

○万里長城見学

西単菜市场視察後、中日友好協会秘書長の孫平化氏の案内で万里長城を見学した。晴天に恵まれ、極めて快適な気分で長城を歩くことができた。

この万里長城は約2,300年前の戦国時代に、燕・趙がそれぞれ蒙古族の侵入を防ぐため構築したが、その後、秦の始皇帝が30万の軍隊と多くの農民を動員して、東は河北省の山海関から西は甘粛省の嘉峪関まで約5,400軒（北海道の稚内から鹿児島までの距離の約2倍半）に及ぶ長城を完成させたものである。今、残っているものは殆んどが明の時代に建造されたものだそうである。城壁の高さは平均約8米、巾6米である。長城の一角の八達嶺は、北京から東北へ約70軒のところであり海拔800米である。

○明の十三陵——定陵見学

万里長城見学の帰路、16代続いた明朝13代の皇帝の陵墓に通ずる道の両側に巨大な石刻の象やらくだ、文官、武官の像36体が、二列に

向いあって立ち並んでいるところを通り、樹々の茂った丘陵地帯に半月型の陵墓があることが説明された。

この十三陵のうち、定陵とよばれる神宗皇帝の陵の地下の入口が1956年考古学者の手で発見され地下宮殿が公開されている。前殿、中殿、後殿の三つの部屋があり、皇帝ならびに二人の皇妃の柩がある。一人の皇帝の陵墓造営の費用が当時の全国の農民の何年分の食糧に匹敵するかという説明が掲げてある。

○十三陵ダム

定陵見学の帰路、十三陵ダムを橋の上から視察した。土手の石垣には、毛沢東主席の自筆で十三水庫と書いてあった。

このダムは、北京の市民、学生、労働者が附近の農民と一緒に建設に参加して出来たもので、毛主席、周首相以下要人も工事に参加したという。今ではこのダムには満々と水をたくわえられ、下流の田畑を潤している。この橋の下流では、人民公社の労働者が精を出して農耕に従事している姿がみられた。

○王磊北京市革命委員会副主任表敬訪問

午後7時10分、北京市革命委員会を訪ね、同委員会の王磊副主任を表敬訪問した。王磊副主任は、次のように歓迎の挨拶を述べた。

今回の全国知事会代表知事団の中国訪問を心から歓迎するとともに、これによって両国の友情は更に一層深まるものと確信する。とくに団長を始め70才以上の方々の来訪に対し、まことに敬服する。中国の代表団が日本を訪問した際、各県の皆さんから暖かい歓迎を受けており、この機会に厚く御礼を申し上げる。代表知事団が1日でも長く、滞在し1

つでも多く中国をみてほしい。わが国は解放後、毛主席の指導のもとに、社会主義国家建設を進めているが、経験も浅く足りない点が多々あるので、友人の皆さんや世界の友人の方々からご注意なりご意見をうかがえれば大変有難い。

北京も、色々の面で建設途上である。足りない点も若干存在する。友人の皆さんに少しでも多くのものをみて頂き、御意見をうかがいたい。また北京は古い都で沢山の名所、旧跡がある。1カ所でも多く見てほしい。日本は経済面、技術開発の面で非常に優れている。大いに学びたいと思っている。

以上の挨拶を述べた後、桑原団長は次のように挨拶した。

われわれ代表団が中国を訪問して、王磊先生にお目にかかれて大変、光栄に思っている。

さる19日、日本を出発し、中国に到着してからまだ3日しか経っていないが、その間、故宮、地下防空壕、青物市場、万里の長城、明十三陵など各所を親切に案内して頂き、非常に得るところが多かった。ことに、地下防空壕を見せてもらったが、お国が自主独立という国是のもとにおいても、なおかつ、平和共存という原則のもとにおいても、なおかつ、一朝事あるときに処する準備をしておくことに敬意を表すると同時に一衣帯水のわが国としても心強く感じた。

なお、残された日程のなかで、更に各所を拝見し、その間に得たものを持ち帰って両国の親善の礎をきづいて参りたい。

(注) 懇談中に宿舎の北京飯店も市の管轄にあるので何か不満があったら

遠慮なく申されたいとの王磊副主任の話しがあったので、帰りがけに宮沢団員が部屋の窓がレースのカーテンしかついていないので、安眠をさまたげるから光の通さないものにかえてくれと話したとこ

ろ、宿舎に帰ったら、その要望どおり厚いカーテンがとりつけられておったことに気付いて、一同驚きかつ、その徹底ぶりに感心した。

○ 中日友好協会会長廖承志閣下表敬訪問

午後6時30分から北京飯店7階の応接間で中日友好協会会長廖承志閣下を表敬訪問した。

まず、中国側が次の同席者を紹介した。

廖承志	中日友好協会会長
王夔生	同 副会長
楚图南	中国人民政治協商会議全国委員会常務委員
王磊	北京市革命委員会副主任
林丽韞	中日友好協会理事
孫平化	中日友好協会秘書長
王曉雲	外交部亜州局副書長
岳岱衡	中国国際旅行社総社責任者
石煌	北京市革命委員会外事組責任者
李江	中国国際貿易促進委員会国際連絡部責任者
段雲	中国国際旅行社総社日本処責任者
金蘇城	中日友好協会理事
楊振亜	外交部亜州石
小川平四郎	駐中日本大使
市川衛門	同・参事官
丹波実	同・一等書記官

続いて全国知事会代表知事団の紹介を行なった後、歓談した。

○中日友好協会主催歓迎晩さん会

廖承志会長を表敬した後、直ちに中日友好協会主催の歓迎晩さん会が催された。

廖承志会長は次のように歓迎の挨拶を述べた。

尊敬する桑原幹根団長先生、尊敬する奥田良三、溝淵増巳両副団長先生、尊敬する小川平四郎大使先生、尊敬する日本全国知事会訪中団の友人の皆さん、同志の皆さん、こんなに大勢の日本の知事・副知事と一堂に会し、ともに友情を語り合うことを私は、非常にうれしく思いますとともに、皆さんの御来訪に対し、暖かい歓迎の意を表します。

中日両国の国交が回復してから2年になるが以来、中日両国人民の間の友好は、経済往来と、文化交流の面において大きな発展を遂げました。これらの成果をおさめたことは、日本の地方自治体の数多くの首長と代表団の諸先生方のなみなみならぬ中日友好のためになされた努力と切り離すことができません。

中日友好協会代表団、その他の中国代表団が日本を訪問し、各県・市を訪問した際、暖かい歓迎と心のこもった歓待を受けました。日本各地の人民の中国人民に対する友情のよしみは、まことに忘れることができない。心から感謝の意を表します。今回、桑原幹根先生は全国知事会代表知事団の団長として団をひきいて来訪されました。御高齢にもかかわらず暑さにもめげず、中日友好のため奔走される精神に対し、心から敬意を表するものであります。このたびの御訪問を通じて必ず中日友好事業発展のため新たな寄与をなされるものと信じます。

当面の世界情勢の特徴は、天下大いに乱れるということであり、米ソ超大国は、いたるところで第3世界発展途上の国々をその支配下におこうとたくらんでいるばかりでなく、日本のような第二世界の発達し

た国々をもあなどっている。社会主義活動を高める超大国ソ連は、もっとも悪らつです。かれらは、殆んどの隣国の領土を占領しています。かれらの行動は手段を選びません。しかし、このようなことは長続きしません。かれらはいたるところで壁にぶつかっています。

中日両国の関係は、ますます友好的に進展しつつありますが、一握りの反動勢力がその失敗にあまんぜず、依然として中日関係の発展を妨害し、破壊しようとするといえ、しかし、中日友好はいかなる力でもそれを阻むことはできません。

私たちは手をたずさえて中日両国人民が、子々孫々、友好的に付き合っていくためにともに奮闘しようではありませんか。

終りに、中日両国人民は子々孫々友好的に付き合っていくために、桑原幹根団長の御健康のために、奥田良三、溝淵増巳両副団長の御健康のために、小川平四郎大使の御健康のために、全国知事会訪中代表知事団の友人の皆さんの御健康のために、ご在席の友人や同志の皆さんの御健康のために乾杯。

桑原団長は次のように答礼の挨拶を述べた。

尊敬する中日友好協会会長の廖承志閣下、副会長の王夔生先生、中国の親愛なる友人の皆さん、小川在中国大使殿、一言、感謝の御挨拶を申し上げます。

本日は、中日友好協会の特別の御配慮によりまして、このように意義深い私どもの歓迎会を催して頂き、まことに有難く、心から感謝申し上げます。知事団一行は12名ですがこの19日に東京の羽田を立ちまして、すでに4日目でございます。この中国の土地に足を入れてから3日目ですがこの3日間は、短い期間であるが私どもにとっては、1週間、10日、あるいはそれ以上、長い期間であったように感ずるのであります。

す。お国の事情は、報道を通じまして概ね承知いたしておりますが、しかし、なお私どもはこのお国に参りまして、この耳できき、この目で拝見いたしまして一層理解を深めたいと存じたのであります。現実、ここに参りまして私どもが、強く感じましたことは、人民の皆さんが自力更生、自主独立という旗印のもとに本当に気迫にみち汗水を流して努力していることであります。本来、お国と日本の関係は、地理的にも一衣帯水であり、また、同志同人であり、全く一体的な関係にあるのであります。この一体的な関係を更に私達は深めて行きたいと念願いたし、知事会の視察団を編成して参ったのであります。

両国間においては、すでに国交が回復し、航空協定も締結されたのでありまして、今後、両国間において各方面の交流がますます盛んになり、従って親善関係はいよいよ深まって行くものと存じます。

私どもは、このような情勢の中において知事の任務といたしましても一層その流れを早めさせていきたいと存じます。

このような考え方で今回、各地の視察をさせて頂いたのでありますが、この間におきまして多くの友人の方々を得たのであります。友人関係、それこそ両国親善関係を深める上に大きな礎になるものと存じております。今日もここで多くの友人を得たのであります。両国の親善関係を進めて行く上で大きな力になるものと存じ、本当に有難く存じております。

故宮や地下防空壕、青物市場も拝見いたしました。今日はまた万里の長城、明十三陵も拝見したのでありますが、防空壕をみまして思いますことはやはり、備えあれば憂いなしということでありまして、いま廖承志会長からも国際情勢についてお話しがありましたが私も同感でございます。

お国は、平和共存を旗印にしておるのでございますが、予期しないこ

とが起ることも考えられますので、備えあれば憂いなしという心構えの必要性を痛感し、深い感銘を受けたのであります。

視察の期間は短いのですが、最大の成果をおさめまして、帰国いたしました際は、両国の親善関係に最大の努力をいたしたいと考えております。このことを中国の親愛なる友人の皆さまがたに申し上げまして、私のお礼の御挨拶といたします。

廖承志会長閣下を始め、ご同席の友人の皆さんの御健康のために乾杯。

8月23日(金)

○鄧小平國務院副総理表敬訪問

午前10時より人民大会堂において鄧小平副総理を表敬訪問した。同席した中国側要人は次のとおりである。

鄧小平	副総理
廖承志	中国友好協会会長
王夔生	同副会長
孫平化	同秘書長
王曉雲	外交部亜州司副司長
金蘇城	中国友好協会理事
单达圻	对外友好協会接待処処長
徐敦信	外交部亜州司副処長
王音	中国友好協会
黄世明	同
呉従勇	同
呉応健	同
王慶英	同

(以下略)

鄧小平副総理と知事団との間に、概ね、次のような会話が行なわれた。

鄧副総理　何時来られたか。多分香港経由で広州から来られたと思うが、中日両国の航空機の相互乗入れが、実現すれば、非常に便利になる。知事団各位を心から歓迎する。

桑原団長　知事団一行は、12名であり、お国にきてから今日で4日目になる。その間、産業・文化等の面について方々案内して頂いたが、いずれの地においても大歓迎をうけ、かつ、親切に案内して頂いて非常に感謝している。

鄧副総理　出来るだけ、多くみて頂きたい。知事団員のなかで、中国を訪れたことがある方はおられるか。

桑原団長　全員が初めての訪問だ。

鄧副総理　それなら、なおさら、歓迎しなければならない。桑原団長は79才になられるというが。

桑原団長　8月29日で満79才だ。

鄧副総理　桑原団長は、1番の長老だから、色々うけたまわらなければならない。

桑原団長　昨日は万里の長城を案内して貰ったが私は頂上を目ざし歩いた。しかし、孫平化先生は、若いが非常に慎重だった。

鄧副総理　頂上近くまで行かれたそうだが、私は、まだ頂上まで行ったことない、桑原団長は少なくとも200才まで生きられるだろう。

桑原団長 後30年位までだろう。

鄧副総理 いやもっと長生される。長生きは大変良いことだ。

桑原団長 1 昨日雨が降ったので昨日は晴れて空気がさわやかだった。万里の長城も非常に綺麗であった。

明十三陵や、十三陵ダムもみせて貰った。

鄧副総理 十三陵ダムは小さい、官庁ダムは、今水がはっているが、昨年春から半年あまり雨が降らなかった、官庁よりも大きい密雲ダムがある。

私たちの代表団が皆さんの県を訪問したとき暖かいもてなしを受け感謝している。

また、名古屋や大阪には、卓球試合や中国展で大変世話になった。各県を廻って非常に楽しい思いをしてきた。皆さんも中国滞在中、楽しく過して貰いたい。奈良は、風光明媚で知られている。

奥田副団長 奈良は奈良朝時代にお国の西安の都市を模倣して作られたものである。

奈良市と西安市が2月1日に友好都市となった。

鄧副総理 友好都市を結ぶことは良いことだが、西安も古都だ。奈良はある時代は日本の中心であった。

奥田副団長 10月に西安市の皆さんが、奈良にみえることになっている。

廖中日友好協会会長 広島県の知事さんがおられるが、先般の日本訪問の際広島に行けなかった。

鄧副総理 次は必ず訪問すべきだ、必ずいきたいと思っている。

官澤団員　何時来るかこの場で約束して貰えればこれから歓迎準備にとりかかりたい。

鄧副総理　中日両国の交流は、世界で一番多い、なにせ 2,000 年の歴史がある。100 年位の短い期間を除いては 1,900 年は友好的であった。日本の皆さんにこのことをといてきている。

日本人は中国に迷惑をかけたというのが、すぎたことだ 2,000 年ということからすれば短いことだ。私達は二つ程日本に迷惑をかけた。

その一つは漢字を日本に送りこんだことだ、唐の時代に中国から日本に漢字を伝えた、漢字は私達も難しいと思っている。

もう一つは、孔子の教えを日本に送りこんだということだ、私達は、いま孔子批判を行なっているところだ。日本の方の迷惑は過ぎたことだ、私達が日本にかけた迷惑は今なお、過ぎていない。

桑原団長　私自身の一生が、迷惑をかけたことになるが、110 才までまだ 30 年ある、余生をお国に罪ほつぼしをしたい。広島県知事は、私より 26 才も若い、私の年まで知事をやれば、60 年、なお長く親善関係をもつことができる。

鄧副総理　団長の言ったことで一つ賛成できないことがある。それは過去にあやまちだが日本人民には責任がない、こういう経歴があったことがかえってプラスになると思う、それによって両方の理解が更に深まると思う。私達の友好がいかに貴重なものであるかが解る。

官澤団員　私は若い、皆さんの後輩である。

常に先輩を尊重しているが、昨日の万里の長城では、先輩を上から見下して気分爽快であった。

鄧副総理 団長のほかに73才、71才の知事がいるようだが、私は70才だ、皆さん3人の知事はあと、30年、40年奮闘されるだろうが、私はだめだ。謙虚な心からいっても若い人にゆずるべきだ。

桑原団長 私も若いものを尊敬し、その能力を伸ばすよう努力している。

鄧副総理 私たちもその気持では一致している。

月末に帰国されるようだが、少し期間が短い、出来るだけ方々を見て、理解を深めて頂きたい。中国が、誕生して以来、中日関係はずっと仲良くしてきた、田中首相、大平外相がきて共同声明を発表して以来、両国間に新しい友好関係が生まれた、両国の政治家、人民とも、子々孫々まで、仲良くつき合っていくことを願っている。友人の皆さんは大変多くの仕事をされた、これからも多くの仕事をしなければならない、お互いに大いに努力いたしましょう。

桑原団長 2年前国交も正常化し、航空協定も締結された、これからは、両国の人の交流が多くある、経済文化の面でも交流が盛んになることと思う。私どもは、今回の経験を個人のものとしないうで、広く多くの人々に伝え、両国の親善に寄与したいと思っている。将来、長く友好関係を続けて行きたい。

鄧副総理 皆さんの訪問を重ねて心から歓迎する。

○人民大会堂見学

人民大会堂は、全国人民代表が会議を開く場所であり、いわば日本の国会議事堂というべきものである。この建物の中には、一万人を収容できる大会議場や国慶節などに内外の賓客を招待する大宴会場もある（5

千人収容可能)また、例えば、黒竜江省の間とか四川省の間というように、省別の大会議室があり、部屋の装飾は、じゅうたん、椅子、窓のカーテンに至るまで、その省の特産物で飾られている。

○中日友好協会との懇談

午後3時より、北京飯店において、孫平化中日友好協会秘書長と懇談した。懇談要旨は次のとおりである。

孫秘書長　七県の知事、副知事各位の訪中を歓迎する。会長、副会長は、所用で出席出来なかつたがご了承願いたい。短い期間に各方面の人々と接触することは、不可能であるので、色々の点について、ざっくばらんに私のところに話しをしてほしい。知っている範囲で答えたい。

桑原団長　　こういう打ちとけた会合を私たちは望んでいた。

各県それぞれ色々の問題をかかえているので具体的にどうということではなく、こういうものがあるということだけでも心にとめてほしい。

孫秘書長　　われわれは古い友人だ。忌憚のない意見を述べられたい。

宮澤団員　　一つお願いがある。これは広島県のみの問題ではない。例として私の県のことを申し上げるが県出身の者で中国に居住しているのは、(生きているとはっきりしている者)60~70名いる。そのうち永久に在中国の者もある。それ以外に日本に帰りたい者11名、1時帰国を希望する者44人いる。帰国については、日本の厚生省が旅費の世話をするので、日本の親類が手続をして、その大部分が手続を終えている。しかし、数年たつてもまだ実現していない、日本国内の手続を了した者については、本人の希望をかなえて頂きたい。

孫秘書長　この件については、協会の管轄外だがしかし、今までにも訪中された方々からこのようなことを申されたことがある。全般的に云って大多数は未解放区にいる。解放後調査した数字と日本の厚生省の数字が合致していない。1953年に中国は、紅十字会を主体として日本人の集団（3万人）の帰国を援助した例の興安丸だ。その後、1958年頃にも1部分の人が帰った。私のみたところでは、一番目は日本国籍の人が中国に住んでいる。また1部の者は、中国人と結婚して中国の籍に入った者、最後の部分の人は、軍国主義が降服したときの孤児で、中国の農民が引きとって養った子供達が、その後日本人であると知ってから日本に帰りたいといい出した者もいた。これらの人々は約7,000人位いると思う。多くは東北地区だ、今すでに、国交が正常化したか、国家の指導者は、正常化前の日本人を協力して手続してきた。正常化後も協力すべきだ。旅費の援助もしたい。日本の手続きをすすんでいるが中国において親は帰りたが、子供はどうなのか、帰りたが、帰りたくないのか、それぞれ家庭の事情もある。若い者の中には、中国の生活になれている者、日本に帰って見たが、慣れずにまた中国に帰ってきたものもいる。このような人々は今沈陽にいる。いずれにしても事柄は、そうややこしくない、どういう人か、材料を送ってほしい。私の方から関係方面に通することができる。原則的には、積極的に帰国を援助する用意がある。無事に日本に帰ったという手紙も受けとっている。

宮澤団員　日本国内の手続が終わってから本人の気が変わったものもいるかもしれない。しかし、かなりの人が手続を終ったものがあるので願います。

名簿を持って来ているので、しかるべきところで調査をして頂きたい。

孫秘書長　各方面にこのような材料があるならば提出してほしい。一括して関係方面に渡す。今までは香港まわりだが、航空機の相互乗入れがはじまれば容易に帰ることができるだろう。天津、上海、大連から中国の船もでている。

小山団員　熊本県も広島県と全く同じ状態である。一昨日名簿を協会の方に渡してある。私のところは107名である。

大槻団員　宮城県にも118名いる。1時帰国48名、うち22名が許可になり帰っている。皆喜んでいる感謝する。しかし、まだいるのでよろしく願う。手紙のやりとりがあるので我々はこれを材料にして把握している。名簿は今回とくに持参しなかった。

孫秘書長　我々は、書類を受けとったらそのまま、関係方面に廻している。

桑原団長　愛知県では、陶磁器だけの博物館を45億円かけて、瀬戸の地域に作る計画を立てている。現在、中国で新しく出来たものが日本のデパートに展示されているが、是非この博物館に中国の現代の焼物を紹介する。陶磁器産業の現状を展示したい。来年の今ごろには完成する。

孫秘書長　陶磁器だけか。

桑原団長　七宝も展示したい。なお、こまかいことについては事務的に話し合いたいと思っている。

孫秘書長　輸出もしているから、現代のものはむずかしくない、毎年春秋、広州で交易会を開き展示している。最近大阪展覧会にも展示した。この問題については東京晴海でまた展覧会をやるから、責任者を派遣して相

談してほしい。今年内にも明と清時代の工芸品を展示する。主に陶磁器だ。これは、中日文化交流協会と日経の主催でやる。

白根団員 青年の船の寄港の問題だが、各県とも計画しているが、来年の秋に実現出来たらありがたい。

孫秘書長 青年の船は、昨年から初まった、良いことだ。主要なる矛盾は、日本からきたい船は40隻以上もある。受入れ能力が限られているので、矛盾がある。1隻の船で数百名がくるわけだから、受入れ側としては大変な仕事になる。今年の本末までに決定したものが二つある。九州の県と和歌山の青年の船だ。その他ののは今年には実現できない。日本側でも準備するのに半年かかるようだ。

中国側の窓口は、国際旅行社だ。もし、今回の訪問期間中に旅行社を訪問する機会がなければ帰国してから、私の方に送ってくれば、旅行社に転送する。長期間の中の交流として考えてほしい。

溝淵副団長 毎年私の県でも青年の船を出しているが、来年7月に中国に行かしてくれと若い者がやかましく言っているが、無理か。

白根団員 来年の秋に頼むと今年の2月に大使館に文書を出している。更に帰国してから田川先生等にも話して是非実現をするよう努力したい。

孫秘書長 神奈川県の方は、国際旅行社に話している。田川先生と文通はしている。

宮澤団員 親、夫、子供を中国で戦死した家族か、中国を訪れてみたい希望を持っているが、近い将来可能か、難しいことか。

孫秘書長　　私は異った見方をもっている。かって日本の友人が墓参りをしたいと申出た人もいる。このようなことを行なうことは現在のこの状況に合致しない。

田中首相が来て共同声明を発表した際も過去を遺憾とし、反省をしていると声明の前文にふれている。私達の気持としては、過去の半世紀のことは忘れようとしている。日本人民の負担を軽くするため戦争の賠償も要求しなかった。墓参りにきて両方とも昔のことを思い出すことは必要ではないか。それよりも前向きの方が良い。過去のことは不愉快ではあったが、両国の人民の友情の尊さを体得出来たことは為になった。私達は、前向きの姿勢で前進して行きたい。やらない方が良い。同時に、変化が大きい。

宮澤団員　　墓参もさることながら、友好の一助にしたい気持から出ている。

孫秘書長　　旧軍人も度々訪問している。互いに戦った人々は、今は良い友人になっている。

○全国知事会代表訪中知事団主催晩さん会

午後6時30分より、北京市国際クラブにおいて、全国知事会代表訪中知事団主催晩さん会を開いた。

招待した方々は、昨日の中日友好協会主催晩さん会出席者全員と小川大使及び大使館員、それに在中国の日本新聞社8社（朝日、毎日、日経、読売、時事、共同、中日、NHK）の特派員等、合せて40名である。

桑原団長は、次のように挨拶した。

尊敬する中日友好協会の廖承志会長先生、尊敬する北京革命委員会副主任王磊先生、尊敬する中日友好協会副会長の王囊生先生、中国人民政

治協商会議全国委員会常務委員楚图南先生、尊敬する小川平四郎大使殿、そして御来会の親愛なる友人の皆さん、この恵まれた機会に一言御挨拶を申し上げます。

尊敬する御列席の皆さま方には、大変おいそがしいところ、御出席を賜わり、心から感謝申し上げます。私ども日本の全国知事会代表知事団は、8月20日夜、貴国を訪問いたしました。政府ならびに各界の方々とお会いし親しく懇談する機会を得ましたことは私どもにとって生涯忘れることの出来ない喜びと幸せに存じます。また各地において色々の施設を視察いたし、また多くの方々とお会いしたが、この際熱烈なる歓迎を受け、まことに感謝に耐えないところであり、厚く御礼を申しあげる次第である。

私どもはこれらの施設を拝見し感心いたしましたことは、すべての人民が勤労意欲に燃え、自力更正の精神をもって、豊かな国づくりに専念いたしておるということであります。特に若い男女の方々は、明日の中国をにないあらゆる分野で懸命の努力をしていることが強く印象づけられたのであります。このことは、国民のひとりひとりが建国の精神にもえているからだと存じます。

また、色々の機会において皆さんと忌憚のない意見の交換をいたしたのであるが、2,000年の長い交流の歴史をもつ両国国民として一層の緊密感を深くしたのであります。

貴国も、我国と同様に国民の福祉増進を図るという基本的努力をされておるのであるが、今回貴国の社会、経済あるいは文化等を拝見いたし、参考になるところ極めて多かったのであります。これらについては、今後の地方自治体の行政運営におきましても大いに取り入れて参りたいと存じております。

また、今後における中日両国の関係につきましても、航空協定も締結せられたので、文化、経済等各般に亘り、われわれの努力により交流が盛んになり、両国の親善関係に大きく寄与するものと信じております。

最後に御列席の方々のご健康と、中国人民共和国の一層の発展と中日友好関係の一層の増進のため、乾杯。

廖承志中日友好協会会長は、次のように答礼の挨拶をした。

尊敬する桑原幹根団長先生、尊敬する奥田良三、溝淵増巳両副団長先生、尊敬する小川平四郎大使先生、尊敬する日本全国知事会代表知事団の友人の皆さん、友人の皆さん、同志の皆さん、全国知事会代表知事団の皆さんは、多忙にもかかわらず時間をさいてこのような会を催して頂き心をこめて私たちを歓待してくれました。

また、桑原団長は、ただいま友好的な御挨拶をなされました。私は中国友好協会とここに列席する中国の同志の皆さんを代表して深く感謝の意を表します。

代表団の友人の皆さんは、中国の首都北京に滞在中、鄧小平副総理は皆さんと会見し、親しく友好的な談話をかわしました。これらを通じて、わたしたちと日本全国知事会との間の理解を深め、友情を増進し、今後の両国の友好事業の発展のため積極的な役割を果たされました。これは、友人の皆さんがこのたびの御来訪においてつくされた寄与でもあります。

明日桑原団長は日程をくりあげて帰国されることになり、かわって奥田良三先生が代表団を卒きいて引き続きわが国の東北と南方を御視察になられますが、別れに際し、わが国と全国知事会の友人の皆さんと各県人民への友好的な挨拶をお伝え下さるようお願いするとともに、桑原団長の旅路の御無事を祈り、機会ありましたら再度の御来訪をお待ち申し上げます。また、代表団の訪問の成功をお祈りします。

終りに、杯をかわして中日両国人民の伝統的友誼のために桑原団長のご健康と旅路の御無事のために、奥田良三、溝淵増巳先生の御健康のために、小川大使先生の御健康のために、代表団の友人の皆さんの御健康のために、この席におられる友人の皆さん、同志の皆さんの御健康のために乾杯。

8月24日(土)

○四季青人民公社見学

午前8時30分、北京飯店を出発し、四季青人民公社を訪れた。

四季青人民公社革命委員会の主任、王東武氏と副主任の王順英氏から、次のような説明があった。

本日、全国知事会代表知事団が私達の人民公社を訪れてくれて本当にうれしい、心から歓迎する。

四季青人民公社の名前は、年中青さを保つという意味でつけた。

この人民公社には、今9,800の世帯があり42,000人の人口がある。耕地は2,734ヘクタールある。

人民公社の下には、14の生産大隊がある。また、134の生産隊があり6つの工場がある。

この人民公社の中には600あまりのポンプ用水路が出ており、水は殆んど地下水にたよっている。

機械化の方面では、130台余りのトラックと60台余りのトラクター(耕運機)がある。

この外にも植物、農産物保護の機械、噴霧機、加工機械を合せると700台ある。これら農業の機械化によって生産が向上している。ここは野菜の栽培が主で1,467ヘクタールの野菜を作っており、毎年、北京

市に1億2千万Kgの野菜を提供している。人民公社が出きたときより生産量が3倍にふえ、その種類も110余りふえている。野菜の外に食糧も供給している。人民公社の出来る前は、作物の収穫は、1毛当り(6畝7分)170Kgだったが、今は400Kgだ。果物の種類は、桃、リンゴ、梨だ。

毎年市場に500万Kg位供給する。人民公社が出来たときより120倍余にふえた。この外に養豚1人当り1頭を飼っている。毎年食用に、17,000頭を市場に供給している。生産の増加によって人民公社の社員の生活も向上した。食べ物にも、着る物にも困らない。この上に新しい建物も建てている。人民公社社員の平均収入は、平均1人当り400円、最高700円。身寄りのない老人については、食事、着物、家、病気の治療、死亡した場合の埋葬などを保障している。子供の教育については小学校が18、中学校が6つある。新しい社員は、ほとんど中学校を出た人だ。医療関係については、病院が1つ、医療機関が各生産大隊にある。素足の^{はだし}医者「注」が200人程いる。社員たちは合作医療制度でやっている。1年に1元積立てるだけで医療は無料である。文化生活の面については、生産大隊に文芸隊や映画隊があって、各生産隊を巡回する。社員たちは、生産に発展をみせ、生活に変化をみたことに驚いている。

なお、同主任は、知事団の質問に対し、次のように答えた。

知事団 老人とは年令によるのか、老人の定義は。

主任 老人とは①年令、②労働力がなくなった、③子供も兄弟もない身寄りがない人。

40才位でも、病気とかで労働が出来ない者や、身寄りがない者は、

敬老院におくる。

知事団 1人当りの年収400円～700円は、現金か、あるいは現物を評価したものを合わせて支給されるのか。

主任 現物も評価して入っている。家庭の副業から得た収入は含まれない。収入は低いが物価が安定しているから困らない。建物も自分のものだから部屋代がいらぬ。国や公社に納める税金がない。農業税は総収入の2.8%だ。増産しても税金の額はふえない。逆に凶作で減収の場合は、減税又は免税される。電気料も都市の半額である。とにかく農業という文字がつけば安くなる。

学校の先生や学生は、時々農村にやってきて労働に参加する。かれらは、書物の知識だけでなく、実践理論を養い視野を広める。それに農業の支援にもなる。国家の幹部でも解放区の兵士でも工業労働者も皆参加する。特に農繁期に援助する。自力更生の精神を基とする。生産隊には、どこにも託児所や、保育所、幼稚園がある。

知事団 家庭に身障者や精神薄弱者がいる場合どうするか。

主任 公社に身障者福祉工場がある。象牙彫などをやらせる。めくらの者は、国の盲人工場がある。精神薄弱者は、肥料集めとか簡単な仕事をさせる。

知事団 農閑期はどうしているか。

主任　　あまり休むときはない。冬でも温室栽培とかビニール栽培の仕事がある。

知事団　　1日の労働時間は何時間か。また休息時間はあるか。

主任　　平均8時間だ。農繁期の場合はこれを超える。冬は逆に少なくなる。各生産大隊がそれぞれ討論して、自分達の労働時間や休息時間を自主的に決めている。

知事団　　人民公社革命委員会は生産だけでなく行政面もやっているのか。

主任　　政治、行政、農業が一元化されている。つまり国の末端組織だ。
(日本の町村役場みたいなもの)

王東武主任の説明のあと、小学校の2年生授業(英語)の様を見学した。また、診療所において、実際のハリ治療(頭痛)を見学した。この治療に当たっているのは、やはりはだしの医者であった。続いて身障者による象牙彫工場も見学した。中学校を出た位の子供が殆んどであり、中には見習いの者もいたが、一般に仕事ぶりは1人前のようだった。

次に果樹園を案内してくれたが、日本とは比べものにならない程、広大な農園で、ブドウやリンゴの木が殆んどであった。木には沢山実をつけているが粒は小さい。試食させられたが、あまりおいしくない。選定と改良をせず、数多く実をつけるからだろう。

帰りに家庭訪問をした。この家庭は夫婦と息子2人、息子の嫁、それに孫で合計7人家族である。夫人の話しによると解放前も7人家族だっ

たが、今の生活とは比べものにならない。解放前は地主に搾取され、圧迫されて毎日食うや食わずの生活であった。私の母は10人の子供を産んだが、7人が餓死や凍死して3人だけ残った。解放前は住む家もなかった。解放後、このような自分の家を健てることができた。今は生活が楽しくなった。自転車や時計、ラジオなど必要なものは全部揃っている。労働力は7人のうち4人だ。毎月の収入は百元あまり、百元のうち生活費は $\frac{1}{3}$ だ。非常に少ない。部屋代もいらない。野菜もタバコも自分の居住地で作る。私は丁度50才だ。学校は出ていない。飯も万足に食えなかったが、今は孫は、外語学校に通っている。解放前では考えられないことだ。屋根も今は瓦ぶきだ。前は茅ぶきで雨が漏る家だったが、その当時は、食べる米があればそれで万足だった。明りもランプだった。今は電気（蛍光灯）を使うようになった。このように豊かになったのは中国共産党と毛主席の指導によるものだ。人民公社が出来てから私達の生活が良くなった。

(注) 「はだしの医者」

はだしの医者は、最初、上海郊外の産米地帯で短期（普通は3カ月ないし半年）訓練を受けた農村の医務関係者がふだんは村の大衆といっしょにはだして野良仕事にでかけていたことから親しみをもって呼びはじめられたものである。

文化大革命の期間、各地の衛生部門は、毛主席の「医療、衛生活動の重点を農村におこう」という方針に従って、農村では多数のはだしの医者を養成した。

中国農村では百余万名にたっしたといわれるこのはだしの医者は、農、医兼業で農村の医療や衛生状況を改善し、農民の健康を守り、農業生産

を促進し、プロレタリア保健衛生革命を推進させるうえで大きな役割を果たしている。現在、農村人民公社の大多数の生産大隊に1名または数名いる。また、その下部組織の生産隊には、衛生員と助産婦が養成され、その数は全国で約百万人をこえるといわれている。はだしの医者、衛生員のうち女性がかなりの数をしめている。公社員から推せんされたはだしの医者は、病気の診断と治療において、普通2、3年もたつと地元の多発病を治療することができる。また、複雑な病気をも治療することができる。1970年以来、毎年多数のはだしの医者が医学校に進学し、一部経験のあるはだしの医者は、医学校からの依頼で学生を指導する任にあたっている。

○ 頤和園参観

四季青人民公社の視察を終わってから頤和園を参観した。

北京から13kmのところにあるもとの離宮で清の高祖がここに殿舎を建て、避暑地にしたところである。さらに西太后が艦隊の建造費をさいてこれを修復したものである。

万寿山には、八角の大桜仏香閣、山腹と湖畔には大小さまざまな楼閣、長廊がある。その境内には、頤樂殿の美術工芸品、玉潤堂と呼ばれる光緒帝幽閉の跡、大理石づくりの巨大な石舫(船)、十七孔橋などがある。

- 午後8時5分の寝台汽車で北京を出発、沈陽に向った。車中は、相当むし暑いものと覚悟したが、夜のせいかわれほどでもなかった。

なお、北京から広州までのわれわれの旅行に中国友好協会の王音氏、呉従勇氏、王慶英女史が同行することになった。

8月25日(日)

○午前6時25分沈陽駅に到着した。駅頭には沈陽市革命委員会副主任の朱維仁氏、遼寧省外事弁公室責任者、唐宏光氏、沈陽市外事処責任者、肖景和氏ら多数関係者が出迎えた。

知事団は宿舎の友誼賓館に案内された。朱維仁副主任は同館で次のような歓迎の挨拶を述べた。

日本全国知事会代表知事団の今回の訪問を心から歓迎する。

中国と日本の交流は益々ふえ、友好がいよいよ深まってきている。今回の皆さんの訪問は両国人民の友誼を発展させることと思う。沈陽市は省においては大きな都市だ。市と郊外、農村を加えると400万の人口を有する。都市の人口は約100万だ。市の周囲は都会の必要な食糧や野菜を作っている。都市では工業が進んでいる。機械工業が多い。その他冶金、化学工業、軽工業も若干ある。文革を通じて各工業には新しい発展がみられた。

いま、わが国は発展途上国だから、工業のレベルは高くない。日本の友人の皆さんは我々の仕事に何か欠点があるようなときは、参観の際、どしどし意見をきかせて頂きたい。なお、滞在期間中、見たいところがあれば遠慮なく申し出てほしい。

奥田団長は、次のように挨拶した。

早朝よりお出迎え下され恐縮に思っている。厚く御礼を申し上げる。20日にお国を訪問して、深圳、広州、北京を経て今日、沈陽を訪れた。北京では友人の皆さんの御厚意により有意義なものをみせて頂いた。東北地方の進んだ都市を是非拝見したいと思って御地を訪れたのである。今朝到着して、ここまで来るまでにこの沈陽は古い都市を改造し、新しい町に作り替えられていることをまのあたりみて非常に感銘した。これ

からも、古いものを新しいものにかえて是非、発展させてほしい。お忙がしいところお邪魔して申し訳ないが色々と多方面に亘り拝見をいたしたい。ご指導をお願いしたい。

○沈陽大型機械工場視察

午前9時に沈陽大型機械工場を視察するため、友誼賓館を出発した。この視察は、沈陽市革命委員会副主任の朱維仁氏が同行した。同工場では、楊樹華歴革命委員会副主任らが出迎え、歓迎の挨拶を述べるとともに次のように工場の概況を説明した。

この工場には解放当時(1948年)は、工員が僅か28人しかいなかった。解放後私たちは、このような新しい工場を造った。1957年になってから本格的な工場になり労働者は、11,000人いる。大型機械工場だから女性の労働者は1,700人しかいない。この工場で作られる製品は3つある。1つは鉍産設備(鉍石を掘る機械)、粉碎機、研磨機だ。

2つ目は、圧延機械(鉄鋼)で1番大きいのは6号型。

3番目は、鍛造設備だ。これは6千トンの水圧プレス、8千トンの熱圧機も作っている。3,500トン余りのアルミ合金(プレス機械の一種)を生産している。

3種類の機械の製品は、300種類である。この工場には1965年に革命委員会ができた。工場の機械の生産高の伸びは、1969年には1965年に比し、約76.9%増となっている。

1970年は1969年より54%増えた。また1971年~73年までの3カ年間では工場の設計能力の110%余り上廻っている。

技術革新の面においても2,400項目あまりを成し遂げた。加工施設

の不足という問題を解決するため専門の加工機械を280品あまり生産した。また工場の面積を拡大するため、自分達の手で2,400平方メートルを拡大した。ここ数年来工場は、若干発展ぶりをみせているが、まだ若干の問題が存在している。とくにある機械の部品の精密度が高くない。

我々は、これらの問題について技術的に解決にとりかかっている。工場には13の生産設備と7つの附帯設備がある。工場を模型によって説明してから現場を案内する。

なお、同主任は、知事団の質問に対し、次のように答えた。

知事団　日本のような労働組合みたいのがあるのか。

主任　　工会がある。それに古参労働者・年功者などで作っているさんぼう隊（顧問みたいなもの）があり工場に重大なことが起きたとき色々、力になる。

知事団　工場の経営などについて労働者の意見が革命委員会に反映されるのか。

主任　　指導者が常に労働しながら大衆と意見を交換している。

知事団　労働者に停年制があるか。

主任　　健康な労働者の場合は、男60才、女55才で停年退職する。停年退職後は元の賃金の70%が支給される。働けなくなった場合や病気で辞めた場合も同様、年金として月に元の賃金の70%が

もらえる。

停年者の中には経験の豊かな者が多いので退職後もかれらと色々、意見の交換を行なっている。

(質疑の後、工場現場を視察した後、再び質疑を行なった)

知事団 機械のことは良く判らないが、とにかく一生懸命働いている職員の姿をみて非常に感心した。

知事団 工場の労働者の平均賃金はいくら位か。

主任 月65元から最高107元位だ。1級から8級に分けられている。最低は33元50角だ。基本給のほかに健康保障費として10元位の手当がある。その外に職場によって1月7元位の加算がある。夜勤手当は70角だ。労働者の殆んどが自転車を持っている。車の修理代として月1元あづけている。バス使用の場合にも手当が出る。託児所の費用は無料だが幼稚園は食事代だけおさめる。3才以下の子供をもつ婦人労働者は、工場のバスが送迎する。

知事団 1万人もの労働者がいればなかにはなまけものもいると思うが、それらに対する対策はどうしているか。

主任 仕事をしないという者はいない。しかし、仕事に神経を集中しない場合、その原因をさがし出して解決をはかる。(家庭での喧嘩、同志間の喧嘩などでそのような現象が出る場合がある)

また職場でクラス会を開いて自己批判する、工場には一定の規律がある、わけもなく欠勤したりする場合は除名することもある。

知事団 製品の販売価格はどうなっているか。

主任 国務院の計画委員会で決める。

知事団 この工場に対する所得税は何％か。

主任 製品によって国務院が決めるが、出荷価格の5％位だ。

知事団 エネルギーや水の問題はどうしているか。

主任 工業用水は、地下水を利用している。エネルギーは、石炭、ガス、重油である。

最後に奥田団長は、自分の力で工場を造ったりして、自力でやっていることに敬服した。独立自主、自力更生の精神をもって働いている労働者には深い感銘をうけた、と挨拶を述べた。

○小型ハンドトラクター工場視察

午後2時30分に友誼賓館を出発し、小型ハンドトラクター工場に向かった。工場では、工革革命委員会主任の刘庆敏氏と同副主任の王庭建氏が出迎え、歓迎挨拶の後、工場の概況について次のように説明した。

このハンドトラクター工場には、労働者の人数は1,000名、機械は

520余台あり、建坪は2万6千平米である。

現在12馬力のハンドトラクターを生産しているが、以前は、労働者200名余りで機械設備は40台余りしかなかった。1960年のとき、工業は農業を支援しようという呼びかけにこたえて、農業用のハンドトラクターの生産を始めた。

我々は生産の過程で3つの困難にぶつかった。

- ① 工場の職場がたりない
- ② 設備がたりない
- ③ 技術が乏しい

工場の労働者は独立自主、自力更生の精神に基づいて働き、国家は私たちにこの工場を与えてくれた。当時、ここでは「レンガ」造りが行なわれており「レンガ」がいたるところに一杯あり、家など一軒もなかった。

労働者は、昼間、生産につとめ夜になるとカマを整備し、レンガを生産し、4,000平方メートルの工場を作った。

設備と技術は乏しいが、自分で設計し自分の職場を建てハンドトラクターの旋盤を開発した。従来は44の穴をあけるのに2時間かかったが、今は両面の穴を1分間で作れるようになった。120倍の能率をあげることができた。

私たちは、生産をしながら技術を革新し1,400ばかりの改革ができた。自分で創造し、自分で設計して造りあげた機械は260あまりある。13本の生産の流れ作業を作った。(オートメ)

生産能率を高め、労働条件の改善も図った。1973年の生産高は、プロ文革前の1965年より22倍にふえた。今年1月から4月までの生産高は年度計画の72.6%を完成した。昨年の同期より30%ふえている。今年はいくつかの成績をあげたがまだ足りないところがある。べ

ンキ塗りも、メッキもまだあらい。これらの問題について克服しているところだ。

奥田団長あいさつ

プロ文革後、農業機械の発明、考案などについて労働者が非常な努力をされたことをうかがったが、心から敬意を表する。私たちは、夕べの夜行汽車で北京から参ったのであるが、今朝、汽車の窓から見渡す限りの広大な耕地を見てびっくりした。あの耕地で耕すために多分ここで生産された小型ハンドトラクターが有効に役立っていることと思う。皆さんの努力には心から敬服した。独立自主、自力更生の精神で努力されている皆さんの姿をあとで拝見いたしたい。

工場参観後、懇談が行なわれた。

主任　ここでは女子労働者が全体の $\frac{1}{3}$ を占めている。

また学生は1年に1カ月間、工業の授業の一つとしてここで働く。

知事団　給料は支給するのか。

主任　支給しない。工業を学ぶということで、学校の授業の一つとして労働に参加する。石けんとか交通費は工場が支給する。

知事団　力があるようだが女子は労働に耐えられるのか。

主任　男女平等だ。女子も天下の半分を支えている。

知事団　生産された製品については検査していると思うが、人民公社で

使ってみて不良品だといわれたことはないか。

主任 工場が責任をもって直すか、今まで不良品は発見されていない。
人民公社にも修理工場があるのでそこで修理する。

知事団 操作が簡単なようだが、訓練を必要としないか。

主任 操作は簡単だが訓練は必要だ。

知事団 月産何台か。1台の価格は？

主任 1月1,000台生産する。価格は1台2,000元だ(日本円30
万円)

知事団 稲を植え付ける機械はあるか。

主任 ここではトラクターだけ生産している。他の工場でそういった
機械を作っている。

このトラクターで食料、野菜の種もまける。発電や灌漑もできる。

知事団 トラクターの使い方のようなパンフレットはあるか。

主任 ある。農具の使い方を教える訓練所がある。
(宮澤副団長は、工場中庭でハンドトラクターの操作技術を係員よりレク
チャーを受け、直ちにこれを体得し見事な運転ぶりを披露し、拍手喝采
を受けた。)

○北陵公園参観

この公園には、昨年4月、田中総理大臣が寄贈した「カラ松」3百本が植えられている。

○李素文遼寧省革命委員会副主任表敬訪問と同副主任主催歓迎晩さん会

李素文副主任は次のように挨拶した。

奥田知事先生を団長とする全国知事会代表団の来訪に対し、省、市革命委員会を代表し熱烈に歓迎する。私は昨年4月、日本を訪問した際各界各層の方々から暖かい歓迎を受けたことに対し、心から御礼を申し上げる。中日両国の友好は、子々孫々世々代々に亘って行かなければならないことを感じた。深い友情と固い団結は、世々代々続くと思う。これは両国人民の願望にかなうのみならず、アジア平和に大きな寄与をもたらすものである。仁は重く、道は遠し、友情関係の発展のため、省の人民は、たえない努力をつづけて行きたい。今後も両国の友情を深めることを期待する。

奥田団長は、次のように答礼の挨拶を述べた。

全国知事会代表知事団は、今回中国の御厚意によりお国を訪問する機会を得て非常にうれしく思っている。私達は、20日に深圳、広州、を経て北京に4日間滞在した。

北京では、要人会見を始め、中国人民の御厚意により、各所を充分見学することができた。特に人民公社や地下防空壕を見せて貰ったが、プロ文革後、独立自主、自力更生の精神をもって努力している姿を真の当り見て、深く感銘を受けた。

今日、大望の沈陽にきたが、朝早くから市の副主任始め多数の方々の出迎えを受け、甚だ恐縮している。

市は東北地方における機械工場の中心地ときいているが、午前は、大型機械工場、また、午後は小型ハンドトラクター工場を見せて貰ったが、いずれも創意工夫し生産に励んでいる姿は、お国が人民の総意をあげて、自力更生、独立自主、艱苦奮斗を旗印に進んでいることが象徴されていた。一昨年田中首相が訪問して中日両国の国交が回復し、更に、今回、中日航空協定が締結されたが今後の両国の親善友好のために一層役立つものと期待している。李先生は、昨年来日された時、数県を訪問していないそうだが、機会を得て是非、訪問してほしい。大いに歓迎する。

○映画観賞

題「青松嶺」人民公社の出来る過程を画いたもの。

8月26日(月)

○沈陽医学院、第一附属病院視察

午前8時30分に友誼賓館を出発し、沈陽市医学院に向った。医学院では、高玉成、相毅力両医学院革命委員会副主任、刘理政、張永清両医学院第一附属病院革命委員会副主任ら関係者多数が出迎えた。

高玉成副主任は、歓迎の挨拶をしたあと、医学院の概要について次のように説明した。

この医学院には、先生、医師、学生合せて4,000人いる。労農系学生は、1,200人だ、附属病院は10ある。そのほか、医学基礎部が1つある。

先生や学生は、農村や工場へ行って労働者から再教育を受け、体験をしてきている。学生の教育面については、社会主義的自覚を持つことに重点をおいている。治療面だけでなく、奉仕の精神がなければ十分に技

術を発揮できないということだ。教育革命では、学校を開放し、実践第一主義がその基本方針とし、実践から理論を学ぶことに努めている。科目も簡単にし、教材の簡素化を図り、広汎な労働者が楽に身につけることができるようにした。また、ここでは、漢方医学と西洋医学を結びつける、いわゆる中西医結合してこれを身につけることを主眼としている。

10の附属病院のうち、8つは農村にある。農村の労働者の治療に重点をおいている。これら8つの病院は、門を開いて経営する方針をとり、医師は、村や部落に行き治療する。残りの2つの病院は、都市にあるが、9%の医務関係者は、農村の治療に当たるとともに、はだしの医師を教育する任務をももっている。彼等も農業を手伝う。都市の附属病院でも、農村からきた患者を優先的に治療するよう配慮している。また、ホテルや工場、居住地に行き労働者のための治療を行なう。ハリ麻酔は、中国では貴重なものだが、歴史が新しいので若干問題がある。

(以上の説明をきいたあと、5人の患者のハリ麻酔による手術の状況を实地に見学した。)

なお、手術を見学後、懇談が行なわれ、次のような質疑応答があった。

知事団　この附属病院の看護婦の人数と教育はどうなっているか。

主任　看護婦の数は、360人だ、教育期間は、文革前は3年だったが、今は2年だ。

知事団　新医科の分野の研究あるいは治療を実際にやっているものがあるが、日本では、脳卒中の後遺症や小児ぜんそくなどには手をやいている。

主任 小児マヒや甲状腺関係はプロ文革後できた新しい医科だ、今まで治療できないものとされているもの70種類について研究、治療に当たっている。小児ぜんそくの治療は70%程度の効果をあげている。

知事団 新医科の勉強を希望する日本人を受け入れる意志ありや、期間は1年位を考えている。現在、中国のハリ麻酔は、世界的に話題になっている。

主任 窓口は、中華医学会だ、意向を伝えておく。

知事団 学長、医院長は医者か、医者の平均月収はいくらか。

主任 学長、病院長は、医学を学んだものとそうでないもの、まちまちだ。医者の月収は62元だ、看護婦は40元から45元だ。

知事団 漢方医薬と西洋医薬の使用割合はどうか。

主任 漢方薬が40%、西洋薬が60%だ。

奥田団長は、一同を代表し次のように挨拶した。

本日は、多忙の折にも拘らず、説明や案内をして頂き厚く御礼を申し上げます。プロ文革後、医学院や病院が改革され、医学が理論と実践を併行して行なわれ、医者も農村に行つて労働に参加するなど、医者の社会的活動に対し、まことに敬服します。また漢方医術と西洋医術を併行して研究されている話しをきいて非常に有益であった。我々も農村や山村

をもっているが、お国はこれらを重点にしていることを知り、大変参考になった。

ハリ麻痺による各種の手術の実際を見せて貰ったが、生涯忘れることの出来ない貴重な体験をした。お国の医療制度をうかがったが我々も自治体病院を経営しているが、極めて参考になった。自治体病院の経営は住民の非常な財政負担になっている。

お国の先生方が、もし日本にきて勉強したい方があったら大いに歓迎する。

○在留邦人との面会

かねて知事代表団として希望し、中国側に申し入れておった在留邦人との面会については、中日友好協会の配慮によって実現した。

遼寧大廈（会館）で知事団と在留邦人11名（男2人、女9人）が、水入らずで面会した。出身県は、広島県2名（男1、女1）、高知県5名（男1、女4）、熊本県4名（女）であった。大部分が当時、満鉄に勤務した者と開拓団に加わって満州に渡った人々やその家族である。

その氏名は次のとおり。

広島県出身	杉本貞雄	一時帰国、日本の手続完了
	宗田ヨシエ	〃
高知県出身	今井清	帰国希望せず
	畑山墨子	一時帰国、日本の手続完了
	中原民子	〃
	西井栄	〃
	西井澄（子供）	〃

熊本県出身	中山 静 恵	永久帰国、日本の手続完了
	丸 山 美奈子(子供)	一時帰国、日本の手続完了
	葉 山 寿恵子	"
	河 原 法 子	"

- 沈陽の日程を終えて、午後8時7分の瀋陽駅発夜行列車で北京に向った。同駅には、朱維仁瀋陽市革命委員会副主任ら関係者が見送りにきた。

8月27日(火)

- 午前6時22分、北京駅に到着した。同駅には、李福德中日友好協会理事ら関係者が出迎えた。
- 午前10時20分、北京空港を出発し、上海に向った。空港には、王蘊生中日友好協会副会長、孫平化同協会秘書長、王曉雲外交部亞州司副司長を始めとする中国側要人と日本大使館の市川参事官ら関係者多数が見送りにきた。
- 午後0時5分、上海空港に到着した。
空港には、馮国柱上海革命委員会副主任ら関係者多数が出迎えた。
- 午後2時50分から、陳庆云上海港務監督革命委員会責任者の案内により、船で黄浦江を視察するとともに、上海大廈屋上より上海市内、揚子江を眺望した。
- 午後7時から上海音楽庁で上海楽団による音楽会に招かれた。

8月28日(水)

○上海工業展覧会見学

午前9時に錦江飯店を出発し、上海工業展覧会場に向った。

同館では、陳強上海工業展覧会革命委員会委員が出迎え、館内を案内した。

上海工業展覧会は、上海工業の新しい製品を展示し、中国内の新しい工業技術を交流する場所である。展覧会は、総合館のほか、機械、電気、冶金、化学工業、電信、計器、軽工業、紡績、手工芸などの分館がある。

展示面積は1万平方米、展示品は5,000点余りある。展示品の中には、上海の機械、電気労働者が自らの手で設計して製造した30 Kwの二重内部水冷式蒸気タービン発電機等、また、冶金労働者が創意工夫して改良した半導体素材等、また、造船労働者が作り上げた遠洋航海船等、電信、計器労働者が作り上げた電子計算機等、化学工業労働者が、汚水、汚電、汚滓を総合利用して作った工程プラスチックやすぐれた漢方薬、杭生物質、新型農薬等々がそれぞれ展示されている。

そのほかに、ハリ麻酔、断肢の接合手術、大面積やけどの治療などの新しい研究の成果なども紹介されている。

○彭浦工人新村視察

(注) 工人新村とは、労働者の住宅群、つまり日本のニュータウンである。大体4階建の鉄筋コンクリートアパートが多い、大きい木々に囲まれて環境は良い。

午後2時、錦江飯店を出発し、彭浦新村視察に向った。

新村では、賀月仙上海革命委員会委員、彭浦工人新村委員会主任と、

史瑾璞彭浦新村第二里美革命群会委員会本部員らが出迎え、賀月仙主任が歓迎挨拶をしたのち、史瑾璞女史から次のような説明があった。

この新村の敷地面積は、22万平方メートル、建築面積は16万平方メートル、世帯数は4,200、人口は約2万人である。

ここに居住する者の大部分が附近の工場で働く労働者で、工場へは自転車で通勤、所要時間は約5分である。都心までのバスもある。

新村の中には、百貨店、商店、青果物店が約20店あり、生活必需品は大体ここで求めることができる。子供の教育面については、小学校が2つ、中学校が1つある。1974年にもう1つの中学校が完成した。今の在校生は約8,000人である。小さな病院もある。医者、看護婦、その他の職員合せて56人いる。医者は、治療のほか工場や農村を巡回し、治療、衛生普及運動をやっており、生産労働者のうしろだてになっている。また労働者が安心して働けるようにサービスステーション、食堂、託児所がある。託児所の子供は現在800人いる。

労働者は、給料のうち毎月の出費を除いて残りは殆んど貯金をしている。家賃は1平方メートル当り、22角から24角でこれは賃金の3%~5%に当たる。普通の家庭(夫婦共稼ぎ)の平均収入は70元位だ。これで4人の生活が維持できる。米の値段も安定し1kg32角だ、たまごや野菜も安い、大体1人当りの生活費は12元から15元位だ。

解放後は、生活が向上するとともに婦人の社会的地位が向上した。新村の婦人は国家機関に勤めている人が多い。

以上の説明ののち、託児所や家庭訪問を行なった。

○馮国柱上海市革命委員会副主任表敬ならびに同副主任主催歓迎晩さん会

午後7時から錦江飯店で馮国柱副主任を表敬したのち、同副主任主催

の歓迎晩さん会に出席した。

中国側の主な出席者

馮	国	柱	上海市革命委員会副主任
金	新	裕	同 外事組責任者
胡	瑞	林	国貿促上海分会責任者
賀	月	仙	彭浦工人新村委員会主任
孟	增	林	上海港二区委員会副主任
华	明	之	中日友好協会上海分会理事

馮国柱副主任は、次のように歓迎の挨拶を述べた。

全国知事会代表知事団の上海ご来訪を心から歓迎する。先般、上海の友好訪問団が日本を訪れた際は、各地において熱烈なる歓迎を受けまして厚く御礼を申し上げる。両国人民は子々孫々まで友好的につき合っ行って行きたいと願っている。両国は一衣帯水であり、平和共存の五原則に基き、仲良くやっついていかなければならない。これは両国人民の共通の願いであるとともに共通の努力によって益々友好関係を進展させなければならぬ。

皆さんは、私たちと同じく地方当局であります。地方当局は中日友好を深く人民に根をおろすことが出来ます。私たちは、中日友好を発展させるため、皆さんと同じように努力する責任がある。今回の皆さんの上海訪問は、相互理解のため、寄与されることを信ずるとともにご成功を祈る。各県の今後の発展と代表団各位のご健康のため乾杯。

奥田団長は次のように答礼の挨拶をした。

馮国柱副主任先生には、おいそがしいところ私どものためにこのよう

な歓迎会を催して頂き、まことに恐縮に存じます。

私たちは、さる20日に広州を経て、北京、沈陽を訪問し上海に参つたのであるが、特に北京では、地下防空壕、人民公社、野菜市場等を拝見した。沈陽では大型機械工場や小型ハンドトラクター工場を見学した。また医学院にも案内して頂いた。いずれのところでも人民の皆さんは、独立自主、自力更生の精神をもって自分の手で創意工夫されながら、生産に励んでおられることに強い印象をうけ、まことに敬服いたしました。昨日、上海に参りまして、まず黄浦江を案内して頂きましたが、港湾の整備が着々と進められ、文字どおりの国際貿易港としての貫録を示して居り、力強く感じられた。また、今日は、上海展覧会を拝見いたしましたが、各分野における労働者がそれぞれ創意工夫されて新しい機械を開発されておることをうかがい、これこそお国の工業の発展の礎であると存じまことに感銘を深くしました。

上海は、中国最大の貿易港であり、工業地帯もあります。一層のご発展をお祈りします。

なお、熊本と上海との海底電線工事が建設されつつありますが、これが完成すると上海との間には、ますます友好関係の進展が期待できると思う。

8月29日(木)

- 午前5時40分、錦江飯店を出発し、上海発午前6時5分の汽車に乗った。駅には、賀月仙上海革命委員会彭浦工人新村委員会主催ほか、関係者が見送りにきた。
- 午前9時32分杭州駅に到着した。駅には、邱強杭州市革命委員会副主任ほか関係者多数が出迎えた。

○ 杭 州 市 錦 織 工 場 視 察

汪明杭州市錦織工場革命委員会常任委員が歓迎の挨拶をしたあと、次のように工場の概要を説明した。

この工場では、主に絹織物、工芸品を生産している。工場は、1922年に建てられ、約50年の歴史を有するが、解放前は、面積が2千平方メートルで労働者も40名しかいなかった。生産量も少なかった。

解放後は、大衆の努力によって工場が拡大されつつある。現在、面積は5万平方メートルになり、労働者も1,700人になった。機械は330種類ある。工場の労働者は、たえず改善、開発を行ない肉体労働から解放させるために努力をしている。

昨年の生産高は、1,318万メートルの絹織物が出来た、合格率は98%である。しかし、まだ不十分なところがある。例えば、デザイン方面とはげしい騒音である、これらを解決するため、今後も努力していくつもりだ。

説明を受けたのち、工場の内部を見学するとともに製品の展示場や商店に案内された。

○ 西 湖 遊 覧

午後2時に西冷賓館を出発し、西湖に向った。西湖を船で遊覧したが、さすが詩歌にうたわれた美しい風景は実にすばらしい。解放後、管理が徹底され、水泳や魚釣りなどを禁止し、自然の美しさを保たせている。唐代の詩人白楽天や蘇東坡がつくらせた堤は、白堤、蘇堤として綺麗に残っており、人は勿論、バスなども通っていた。湖の中には、人工の美しい庭園もあり、何か日本の庭園に似た感じなので、しばし中国に居ることを忘れる程だった。

○杭州茶（龍井茶）の生産地視察

西湖人民公社梅豪塢大隊革命委員会の朱長生主任が歓迎の挨拶を述べたあと、次のように説明した。

龍井茶は、4つの特徴がある。色があおいこと、香りが良いこと、味が良いこと、形が良いことなどである。品質は11級に分かれている。特級は、4月12日前につんだものである。今ごろのは9級か10級だ。特級の茶は、1Kgに6万枚程度の茶が入っている。この大隊の耕地面積は、70ヘクタールである、そのほか、牧畜場もあり、10ヘクタールの水稻栽培も行なっている。大隊の世帯数は220、人口は1,242人、生産労働者は700人である。

解放前は、地主が85%を占め、土地もやせ、生産は、1万Kgしかなかった。1949年に解放され、土地は農民のものになり、1956年のとき互助組を作った。村には28の農業合作社を作った。そして1958年に人民公社ができた。それから生産が向上し、1973年には11万Kgになった。加工工場も出来た。輸送の面は、トラックやトラクターがある。山にはケーブルカーもある。1964年に学校や託児所が設けられた。身寄りのない人や老人については生活の保障がある。1973年の収入は、平均1家庭1,100元であった。ほかに副収入もある。

600ヘクタールの山があるので、これからも山を開発して、いちごや竹を生産したい。

○雲林禪寺参観

○頼可可浙江省革命委員会副主任表敬訪問と同副主任主催歓迎晩さん会

午後7時から、西冷賓館で頼可可省副主任を表敬するとともに、同副

主任主催の歓迎晩さん会が催された。

中国側の主な出席者は次のとおりである。

頼	可	可	浙江省革命委員会副主任		
邱		強	杭州市革命委員会副主任		
任	貫	一	中日友好協会浙江省杭州市分会責任者		
林	志	明	同	上	
呂	世	宏	同	上	理事

頼可可省副主任は、次のように歓迎の挨拶を述べた。

私は、全国知事会代表団の今回の訪中に対し浙江省の人民を代表し、熱烈なる歓迎の意を表します。中日両国人民の間には、悠久たる伝統的な友誼があり、また非常に長い歴史と友誼関係で結ばれております。この歴史を遡ると数千年になる、経済面においても文化の方面においても非常に幅広く交流が行なわれております。その数千年の歴史の間には、1時的に不愉快なことが起きたけれども、それは歴史全体からみれば、やはり1時的なものであり、既に過ぎ去ったものである。

現在、中日両国の交流は、ますます頻繁になっております。中日国交回復後は、我が国から数多くの訪日代表団を派遣し、また、お国からも沢山の訪中団が派遣されております。このことは、両国人民の友情を一層深める役目を果たしております。今回の皆さんの訪中は両国人民の友誼を一層深めることに大きな貢献をされることを確信いたします。中日両国人民の友誼と両国の発展のため乾杯。

奥田団長は、次のように答礼の挨拶をした。

私たち日本全国知事会代表知事団は、さる20日にお国に参りまして、北京、沈陽、上海を訪問し、今朝、杭州に到着しました。頼可可先生に

は、ご多忙中のところ、今夕はこのような歓迎の宴を催して下され、まことに恐縮いたしております。私どもは、今日まで、各地を訪問したが、いずれの地でも熱烈な歓迎を受ました。このことは中日友好関係の発展を示すものであり、今後、一層友好関係を持続して行く必要があることを痛感いたしました。本日はまた、杭州市の絹織物工場を拝見したが、労働者の皆さんは、独立自主、自力更生の精神をもって、創意工夫をいたし、生産量の拡大を図っていることを承り、深い感銘を受けました。ご承知の如く、中日两国の間には、古くから交流があり、今回、更に航空機の相互乗り入れが実現されますと、各方面の交流が盛んになり、いよいよ親密の度が加わることと存じます。今後、益々友好親善を深め、両国の発展を促進されるよう念願いたします。

頼可可先生におかれても機会を得て訪日されることを心から歓迎いたします。

頼可可先生を始め、ご列席の各位のご健康のため乾杯。

8月30日(金)

- 午前8時55分に杭州空港を出発し、南昌に向った。杭州空港には、邱強杭州市革命委員会副主任ほか関係者が見送りにきた。
- 午前10時23分南昌空港に着陸、給油の後、午前11時30分同空港を出発し、広州に向った。
- 午後1時30分広州空港に到着した。
空港には、鐘明広州市革命委員会副主任ほか関係者が出迎えた。
- 午後3時から、広州友誼商店を見学

○ 焦林義広東省革命委員会副主任兼広州市革命委員会主任表敬ならびに同副主任主催歓迎晩さん会

午後6時20分に広東迎賓館で同副主任を表敬したあと晩さん会に出席した。

焦林義省副主任は、次のように歓迎の挨拶を述べた。

全国知事会代表訪中国の皆さんには、きびしい暑さの中、中日友好のため、中国を訪問されわが国の各地を視察されたことに対し、心から敬服の意を表します。

中日两国人民の間には、永い間の伝統的な友誼がある。そのうちには、1時的ではあるが、日本軍国主義によって破られたことがあるが、しかし、そのような歴史があったにしても、その友誼は、两国人民の努力によって一層発展し、これを持続させることが出来ると思う。

今回の皆さんのご訪問は、期間が非常に短かいが、中日两国人民の友情を増進するために大きな寄与をしたものと信じます。再度の来訪を心からお待ちしております。

奥田団長は、次のように答礼の挨拶をした。

今夕は、焦林義副主任先生には、ご多忙のところ私たちのために、このような宴を催して下さい、まことに恐縮に存じます。

私たちは、さる20日に広州に参りまして、北京、沈陽、上海、杭州の訪問を終え、再びこの広州に参りました。約10日間の滞在中、鄧小平副総理を始め、各界多数の要人と懇談する機会を得て非常に光栄に存じております。

北京では、故宮、地下防空壕、野菜市場などを、東北の沈陽では、大型機械工場、ハンドトラクター工場、医学院など、また上海では、上海工業展覧会、労働者新村、杭州では織物工場などそれぞれ数多くの産業、

文化等の面についてご案内をいただきました。いずれの地においても熱烈なる歓迎を受け、心暖まるもてなしを受け、心から感謝申し上げます。また、至るところで、人民の皆さんが、独立自主、自立更生、刻苦勉励を旗印として、努力せられ豊かな国づくりに専念されている姿をまのあたり拝見し、深い感銘を受けました。私たちは、明日お国を離れて帰国の途につきますが、滞在中のお国の方々から受けたい厚意に対し、一同を代表し、心から謝意を表します。今後とも益々中日両国の交流を盛んにし、一層の親善友好を深め、両国の発展に努力いたしたいと存じます。

8月31日(土)

- 午前8時に広東迎賓館を出発し、広州駅に向った。広州駅には、鐘明広州市革命委員会副主任ほか関係者が見送りにきた。

なお、北京から私どもに同行した中日友好協会の王音氏、呉從勇氏、王慶英女史とは、ここで別れ、これより中国人民对外友好協会広東省分会の陳秋泉氏と宋慶彬氏が深圳まで同行することになった。

- 午前8時20分、広州駅を出発し、午前9時50分に深圳に到着した。中国側の出国手続きを了し国境を越え羅湖で入国手続を行なった。
- 午前12時に羅湖駅を出発し、午後1時15分九龍駅(香港)に到着した。

以上

